

あうる

Treasure every meeting as it's chance to happen is only once in a life time.

北海道歴史秘話 38

札幌の街並みが眼下に広がる
「大倉山ジャンプ競技場」。
だがここは山ではなく丘だった。

ジャンプは北大から

スキージャンプの起源は一八四〇年頃、ノルウェーニテレマーク地方が発祥とされ、明治十二（一八七九）年、同地方に住む靴屋の少年がオスロの丘で三メートル飛んだというのが、ジャンプ大会最初の記録として残っている。

では日本のスキージャンプはいつから始まったのかというと、大正五（一九一六）年、東北帝国大学農科大学（現在の北海道大学）水産学科の遠藤吉三郎教授が北欧への留学を終え、帰任してからと言われている。

以後農科大生がジャンプの研究を行い、北海道帝国大学となった後の大正十二（一九二三）年には、スキー部が三角山に「シルバージャンツェ」というジャンプ台を建造。翌年、第一回北海道選手権大会が行われたが、優勝者の記録はわずか二メートル四〇にすぎなかった。

同年秋に学生たちはこのジャンツェを三〇メートル級に改造し、大正十五（一九二六）年に北大の村本金弥が二八メートル二〇の日本新記録をつかった。

ヘルセット中尉

昭和四（一九二九）年、ノルウェーからサンモリッツオリンピック・ノルウェーチームの監督であり、ジャンツェ設計の権威でもあったオラフ・ヘルセット中尉ら三名が来道した。目的は、ジャンプ台の建設とノルディックスキーの技術指導であった。